



2021/8/20 Kさん

「高齢診療科に受診して」

都内の別に暮らしている父が長年趣味にしていた絵描きをまったくやらなくなり、母の頼んだ用事も忘れてたりすることが出て様子がおかしくなり、内科のかかりつけ医に相談、同時にこちらでもネットで症状や病院を調べ、当初は他の科にかかっていたこともあり都内の別の病院へ通っていました。父も取り巻く家族も心理検査を長時間行い、父の診断は老年性の鬱。薬を処方され何度か診察に行くも、どんどん悪くなり、やる気も出てこない。たまたま、私の内科のかかりつけの先生が老年診療科も表ぼしていたため、相談しMRIを。萎縮があるので東京医大の羽生先生にかかることを勧められ、そちらへ転院したのが始まりでした。以前の大学病院は全くに近いくらい父の話を聞くこともなかったのですが、羽生先生は本人に穏やかな話し方で血圧を測ってくださったり、前回から今日までの情報を診察前に提出しますが、その情報から上手に父に質問をしてくださったり、提案をしてくださり、父も先生に心を許して診察に通っていました。その中で認茶屋とのご縁があり、父は大きな行事の時にのみの参加ですが参加させていただいております。

「茶屋に参加して」

茶屋に初回から出られるときは参加させていただいています。認めの方は目立ちたがり屋の所もあり、大きな行事のみで、後は私が一人で他の認めのご家族とも交流をしたくて参加させていただいております。実際、本を購入し読んでもなかなか、認知症…の出方は様々で、経験者の方に教科書を離れた実際の対応等を相談させていただける場でもあり、有難く思っています。デイサービスでもなく、家族と一緒に行事の準備をさせていただいたり、介の私達も楽しいです。今は、コロナ禍でオンラインでの交流ですが、この自粛の中で、どうやっていくか、どうしているか、やり取りできるのも少し離れて介護をしている私にはオアシスです。

